甲134号証

小田急沿線交通施設及び街づくり調査

報　告　書

平成６年３月

世　田　谷　区

中央復建コンサルタンツ株式会社

目　次

0.　調査の目的 …… 1

1.　目　的 …… 1

2.　全体構成 …… 1

1.　交通施設計画 …… 3

1-1 過年度調査の整理 …… 3

1-2 交通施設整備の課題整理 …… 8

1-3 交通基盤施設整備方針の検討 …… 15

(1)　交通基盤整備の基本方針 …… 15

(2)　周辺道路網計画 …… 19

(3)　駅前広場計画 …… 29

(4)　自転車及び自動車駐車場計画 …… 34

(5)　上部空間、高架下利用 …… 38

(6)　交通基盤施設整備方針の検討 …… 39

2.　まちづくり計画 …… 48

2-1 現況調査（世田谷区及び小田急線沿線の現況） …… 48

(1)　調査対象地区の位置及び地形 …… 48

(2)　社会圏域等 …… 53

(3)　人口（地区別人口及び人口動向） …… 58

(4)　土地利用等の現況 …… 60

(5)　交通施設の現況 …… 74

(6)　公共公益施設等の現況 …… 88

2-2 小田急線沿線市街地整備の把握 …… 92

(1)　上位計画等 …… 92

(2)　商業地区の立地と構造 …… 103

2-3 地区の問題点の整理と課題の抽出 …… 110

2-4 街づくりの方向に係わる検討 …… 121

(1)　市街地整備の方向 …… 122

(2)　商業地区整備の方向 …… 123

(3)　住宅・商業が調和した都市環境の誘導方向 …… 126

3.　今後の方向づけについて …… 128

(3) 駅前広場計画

① 駅前広場機能の設定

検討対象3駅における駅前広場機能としては、以下の通りと考える。

下北沢駅

下北沢駅は、世田谷区内における広域生活拠点として位置づけられている。また、小田急線が新宿、京王井の頭線が渋谷といった拠点地区を起点とする鉄道路線が交わるターミナル駅となっている。

下北沢駅前広場の機能としては、現在は道路上で行われている路線バスの乗降も含めて駅前広場内で処理するものと考え、基本的にはターミナル駅として必要な機能を確保するものとする。

世田谷代田駅、東北沢駅

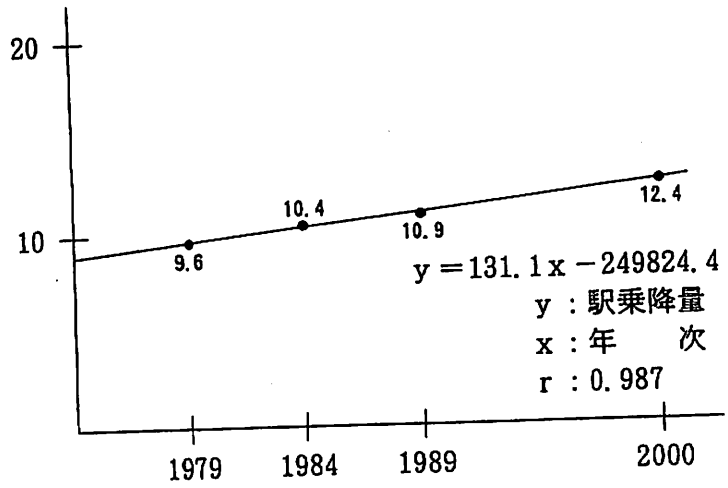
世田谷代田駅、東北沢駅については、広域生活拠点である下北沢駅に隣接しており、商業集積等もあまり高くない等、拠点性は高くないものと考えられる。この両駅における駅前広場は、駅周辺において大規模な面的事業の展開が望めないことからも、一般車、タクシー等の駅前へのアクセスに機能を限定した比較的小規模な広場の設置を考える。

② 駅前広場の概略規模の把握

将来駅乗降量の想定

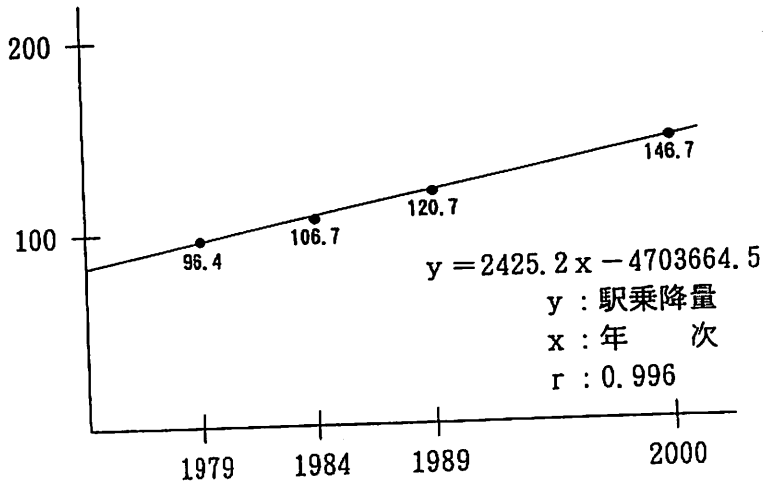
おおむね10年後である平成12年度における将来乗降量については、過去の各駅における駅乗降量のトレンドにより想定した。

世田谷代田

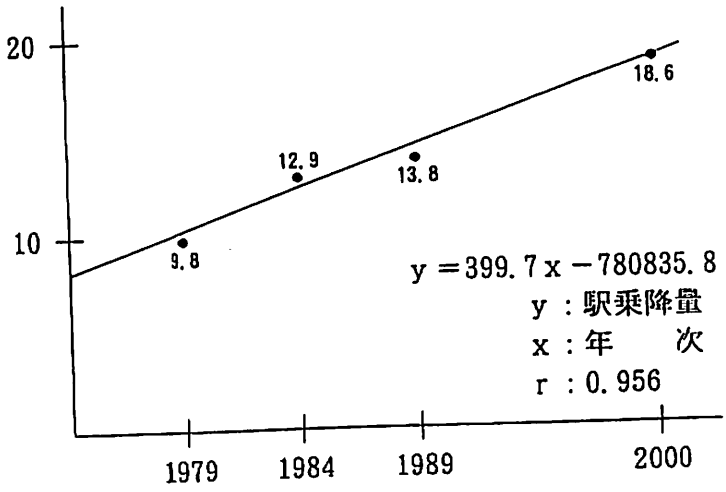


下　北　沢

（•小田急線および井の頭線の乗降量
•ただし、乗換えは除く）



東　北　沢



駅端末手段別交通量

現況における端末手段構成と同じと想定する。

（千人／日（往復））

	徒　歩	二　輪	バ　ス	タクシー	自家用	計
世田谷代田	11.1 (89.8%)	0.8 (6.8%)	0.3 (2.6%)	0 (0.0%)	0.2 (0.8%)	12.4 (100%)
下　北　沢	133.8 (91.2%)	5.1 (3.5%)	6.7 (4.6%)	1.0 (0.7%)	0.1 (0.1%)	146.7 (100%)
東　北　沢	17.7 (95.4%)	0.9 (4.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	18.6 (100%)

ピーク時手段別交通量

ピーク率としては都市圏における平均的なピーク率25%を用いる。

（人／時）

	徒　歩	二　輪	バ　ス	タクシー	自家用
世田谷代田	1,390	100	40	0	30
下　北　沢	16,730	640	840	140	10
東　北　沢	2,210	110	0	0	0

交通手段別整備施設量の算定

- 東北沢駅および世田谷代田駅については、一般車用のバースを1バース確保するものとする。
- 下北沢駅については、交通結節機能の強化を図るために、バス、タクシー、一般車の施設を整備するものとする。

	世田谷代田駅	下北沢駅	東北沢駅
バス施設	――	2バース	――
タクシー施設	――	乗降　1バース ﾀｸｼｰﾌﾟｰﾙ　20台	――
一般車施設	1バース	1バース	1バース

駅前広場規模の算定

		世田谷代田駅	下北沢駅	東北沢駅
28年式	上　限	1,600㎡	14,400㎡	2,400㎡
	標　準	1,500㎡	13,500㎡	2,300㎡
	下　限	1,100㎡	9,800㎡	1,700㎡
積み上げ式	歩行者	10㎡	600㎡	20㎡
	バ　ス	———	1,800㎡	———
	タクシー	———	1,400㎡	———
	マイカー	270㎡	1,000㎡	270㎡
	その他	70㎡	1,200㎡	70㎡
	計	350㎡ ≒約400㎡	6,000㎡	360㎡ ≒約400㎡

48年式による駅前広場規模の算定

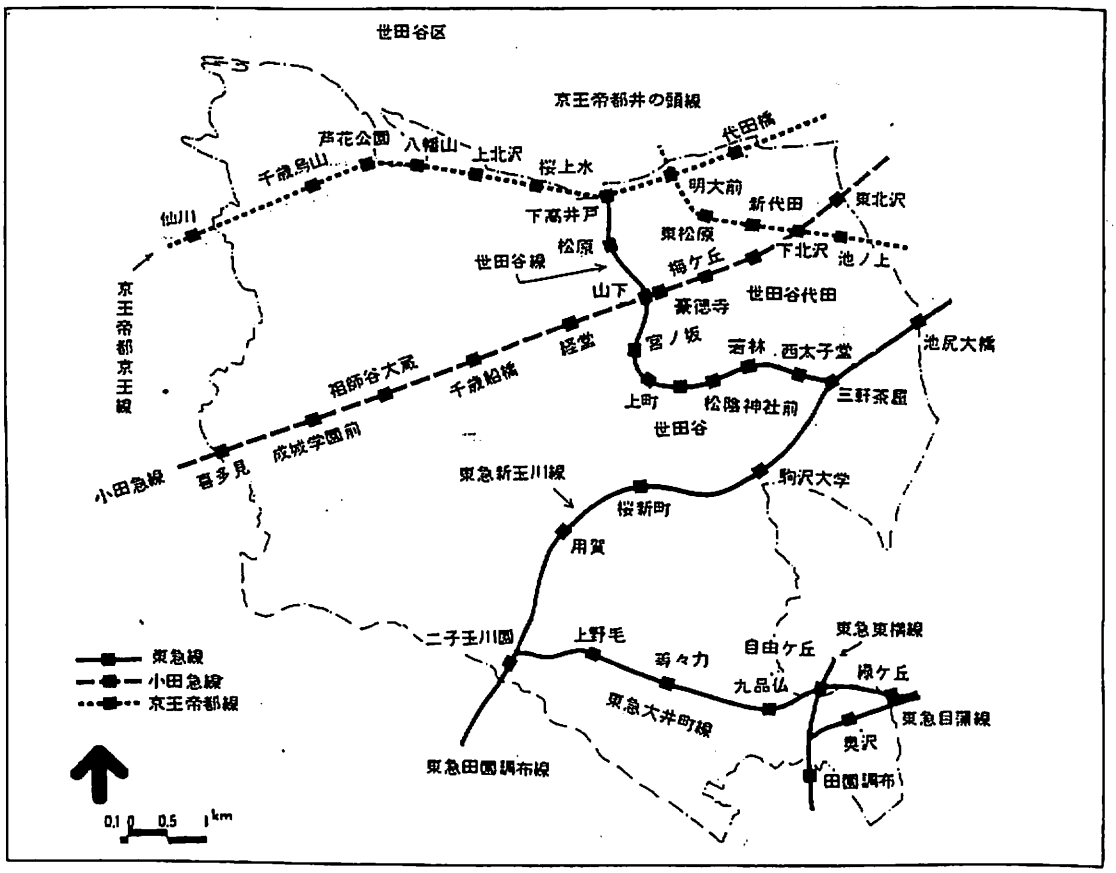
48年式による駅前広場規模の算定結果を下表に示す。なお、駅前広場利用者比は1.5としており、手段分担は現況分担率に基づいている。

	世田谷代田駅	下北沢駅	東北沢駅
48年式	1,700㎡ (1,800㎡)	5,200㎡	160㎡ (1,500㎡)

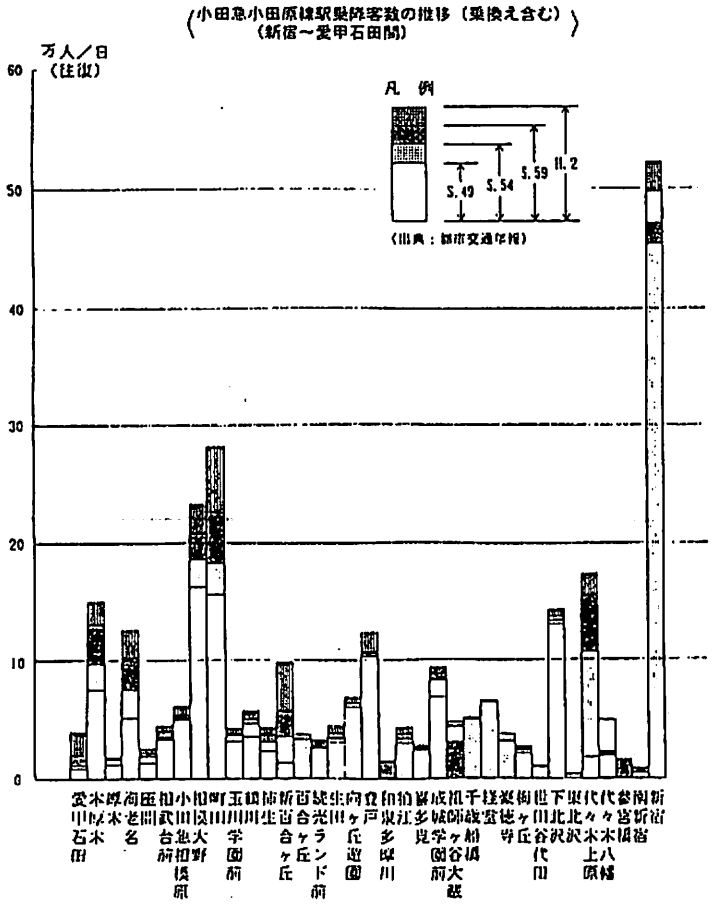
注）（　　）内は、東北沢駅、世田谷代田駅において、一般車バースを1バース確保した場合を示す。

ii）鉄道の現況

鉄道路線図



小田急線各駅の乗降客数の推移



小田急線各駅の乗降客数の推移

（小田急小田原線（新宿～愛甲石田間）駅乗降量（人／日（往復））

駅名	乗降量			
	昭和49年度	昭和54年度	昭和59年度	平成2年度
新宿	497,405	454,198	471,833	531,592
南新宿	4,542	5,560	9,105	7,526
参宮橋	16,054	16,398	15,116	15,762
代々木八幡	49,189	18,949	20,222	23,516
代々木上原	17,699	106,369	155,017	175,581
東北沢	13,709	9,818	12,874	13,140
下北沢	129,956	133,153	138,956	144,690
世田谷代田	10,426	9,561	10,401	10,419
梅ケ丘	20,985	23,454	25,693	27,797
豪徳寺	37,188	31,247	32,157	31,534
経堂	65,766	63,945	65,094	67,534
千歳船橋	49,488	48,773	49,752	52,678
祖師ケ谷大蔵	35,713	31,688	30,504	34,183
成城学園前	68,425	82,640	89,515	95,271
喜多見	23,475	25,010	25,977	27,536
狛江	29,877	33,524	37,600	13,488
和泉多摩川	14,494	15,037	13,773	16,360
登戸	102,880	108,159	110,023	133,444
向ケ丘遊園	59,054	63,928	63,404	70,457
生田	30,055	33,638	37,773	46,400
読売ランド前	24,955	26,651	29,250	33,981
百合ケ丘	36,683	30,604	33,294	33,121
新百合ケ丘	12,936	39,354	61,198	112,861
柿生	22,086	30,206	36,450	42,457
鶴川	34,519	45,547	40,686	59,314
玉川学園前	30,925	35,887	37,430	43,424
町田	155,533	182,524	225,887	287,586
相模大野	161,894	165,597	207,663	238,931
小田急相模原	48,959	50,743	53,257	63,251
相武台前	32,312	33,897	39,489	46,819
座間	13,066	18,471	21,335	25,981
海老名	50,773	74,569	102,288	130,528
厚木	11,690	15,741	17,017	18,963
本厚木	74,731	96,925	130,383	154,679
愛甲石田	8,492	11,096	19,839	43,447

（出典：都市交通年報）

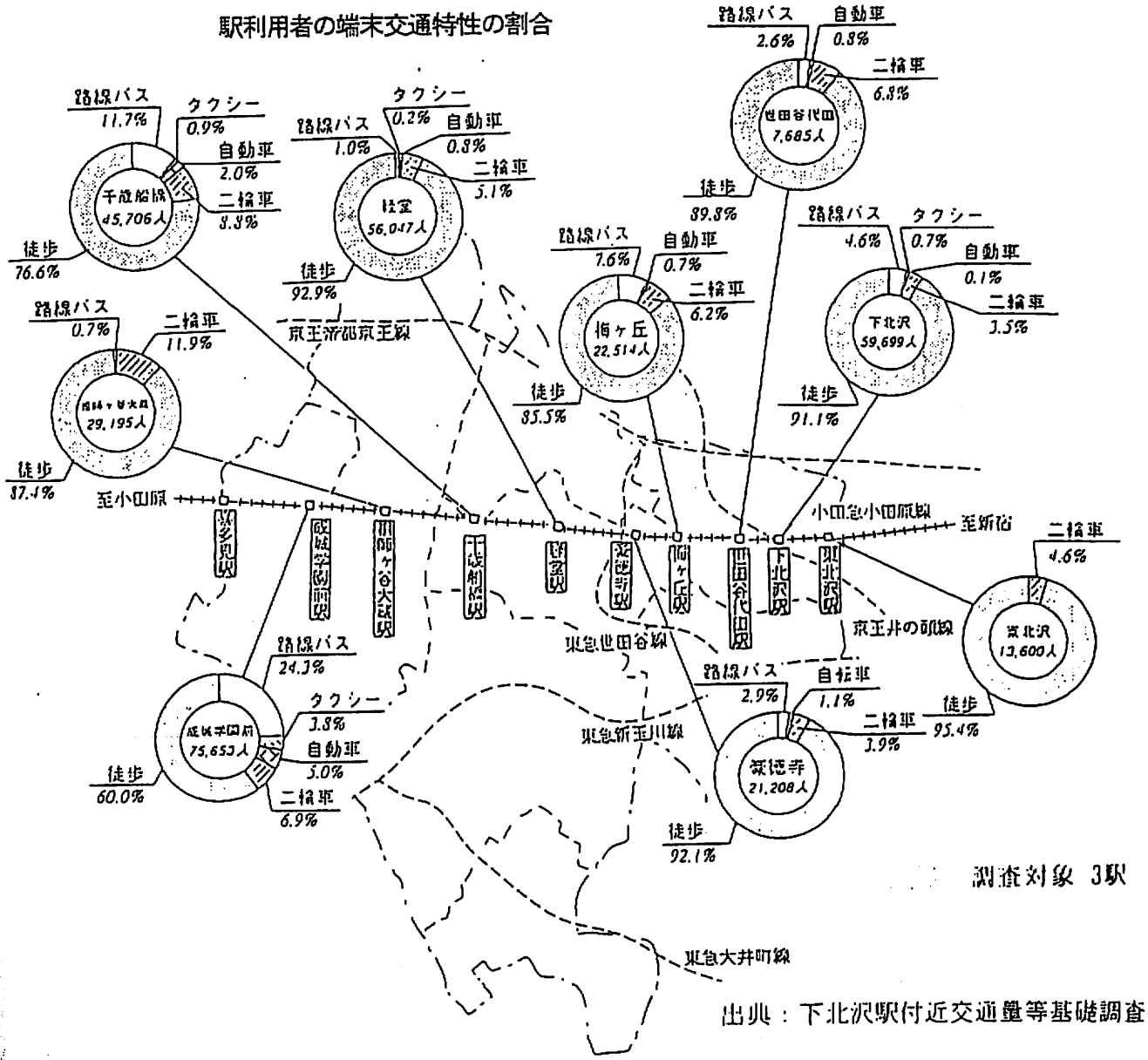
駅利用者の端末交通特性の割合

調査対象３駅の鉄道の行き帰りに利用する交通手段（端末代表交通手段）を見ると、自動車、タクシーの利用割合１％未満と駅周辺の道路環境を反映して、低くなっているのに対し、徒歩利用者の割合は、各駅とも約90％以上と高い利用率となっている。

３駅の中では、東北沢駅が最も歩行者利用の割合が高く、約95％を占めている。これは、世田谷区内の小田急沿線各駅と比較しても、最も高い利用率である。

バスは世田谷代田駅で、約３％、下北沢駅で約５％と、駅直近にバス路線網が整備されているが、低い利用率となっている。

駅利用者の端末交通特性の割合



調査対象 3駅

出典：下北沢駅付近交通量等基礎調査